

平成8年度授業改善のためのアンケート調査結果 ～農学部学生による授業評価～

新潟大学農学部教育検討委員会

A Brief Discussion of the Results of the Questionnaires for the Improvement of Teaching

Committee for Improvement of Education, Faculty of Agriculture,
Niigata University

To improve teaching methods, the Committee for Improvement of Education conducted a questionnaire in February, 1997. The questionnaire was conducted on the 47 subjects and was given to 1,748 Agriculture students. Some important points were found out.

The students selections of lecture subjects are dependent on the curriculum of each department, and the syllabi are taken into great consideration by the students of departments with few required subjects. Almost all the students seem to understand the purposes of the lectures, but they don't think that the topics are fully and effectively explained. The students have a tendency to be interested in only amusing contents. They feel the content of a lecture is too much for a period. The students who can't fully understand the lectures have proved to be lacking fundamental knowledge and they admit it is because they don't study enough at home. Also, 63% of the students say they don't prepare for the lectures at all. There is a deep gap of the professors' intentions and the students' impressions or responses to the lectures. Even though professors intend to manage their lectures enthusiastically, students are critical in the evaluations about the lectures. Students strongly demand that the professors teach them by paying attention to the responses of the students.

The results of the questionnaires suggested that professors should make their students study, by giving them some homework, as well as endeavor to improve their lectures.

Key words: Improvement of teaching, Questionnaires, teaching method, Students' evaluation, Curriculum

はじめに

農学部教育検討委員会では教育改善の一環として、学生を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を調査報告書にまとめ公表してきた。

平成7年度に実施した第一回目の結果については、「カリキュラム改善のための農学部学生へのアンケート調査結果」として「大学教育研究年報」第2号に、また平成8年度9月に実施した第二回目の結果は、同年報3号に報告した。

本調査及び分析は、平成9年2月に、本委員会が農

学部学生を対象に実施した第三回目の授業評価に関するアンケート調査の結果をとりまとめたものである。調査は、本委員会が作成した「授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）」（調査票は文末参照）により、担当教員の協力を得て、第2学期の最終授業日を基準日において、授業終了後、当該授業の聴講生に調査票を配布し、その場で記入、回収したものである。

この度、委員会での分析結果がまとまったので、ここに公表し、広く関係者の参考に供することとした。アンケート調査の対象となった授業科目数は56科目で

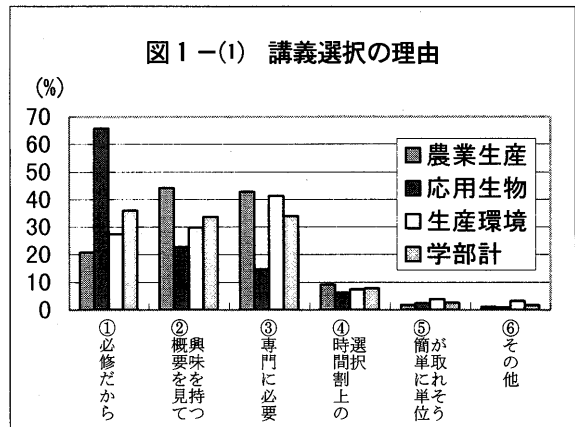
あったが、このうち実施科目数は47科目であった。その内訳は、農業生産科学科16科目、応用生物化学科11科目、生産環境科学科20科目であった。また、回答学生数は対象学生2,424名のうち1,748名で、回答率は72.1%であった。回答学生の所属学科は農業生産科学科727名（41.6%）、応用生物化学科518名（29.6%）、生産環境科学科503名（28.8%）であった。学年別では、1年生が237名（13.6%）、2年生が最も多く953名（54.5%）、3年生518名（29.6%）、4年生37名（2.1%）となっていた。

1. 一般的な質問について

(1) 講義選択の理由（複数回答）

回答結果は、学科間で異なっていた。応用生物化学科では、「必須だから」との回答が最多の66%を占め、次いで「講義概要を見て」の23%、「専門科目として必要」の15%の順であった。一方、生産環境科学科では、これらの選択肢に関して逆の傾向が認められ、「専門科目として必要」との回答が最も多く（41%）、「講義概要を見て」（30%）、「必修だから」（27%）という結果であった。これに対して、農業生産科学科では、「講義概要を見て」が44%、「専門科目として必要」が43%で、合わせて87%にのぼる一方、「必修だから」の割合は21%と3学科の中では最も低かった。このような学科間に認められる異なる傾向は、カリキュラム内容の差異を少なからず反映した結果と考えられる。

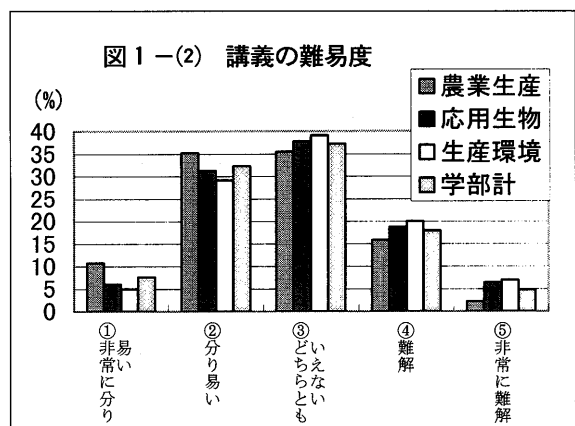
全体として、「簡単に単位が取れそうだった」の回答率が2.5%にすぎず、「必修だから」「講義概要を見て」および「専門科目として必要」を合計した割合が高かった点は好ましい結果と解釈されるが、「時間割の関係で選択せざるを得なかった」が約8%見られた点については、今後の課題として留意を要する。



(2) 「講義の難易度」について

聴講科目の難易度の評価は、学科間で各選択肢に対する反応の様相に多少の差異が認められるものの、全体としては、大きく三分された結果となっている。すなわち、総計では、「非常にわかりやすかった」および「わかりやすかった」が合わせて40%を占めた反面、「非常にわかりにくかった」および「わかりにくかった」の計も20%強認められ、残りの約40%が「どちらともいえない」という結果であった。

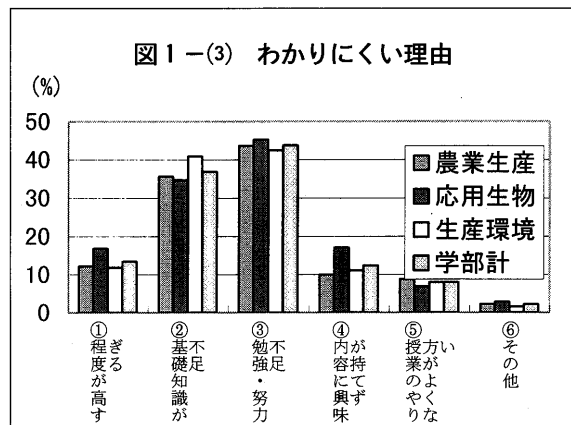
前回調査の場合と同様に、「（非常に）わかりやすかった」という評価の割合が50%を下回っている現状に鑑み、教員側により一層の工夫が求められるのは当然のことであるが、学生側にも理解しようとする積極的な努力を強く促したいところである。



(3) 受講してわかりにくい点が出てきた理由

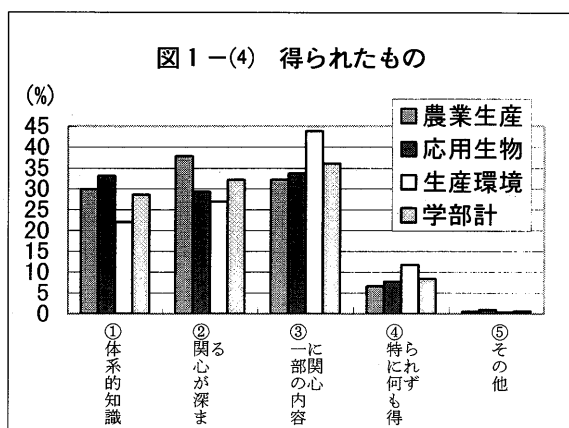
農業生産科学科、応用生物化学科、生産環境科学科、いずれも「基礎知識が不足」、「自分の勉強、努力が足りない」と回答した学生が79~84%を占めた。従っ

て学生は自己責任において、わかりにくい点の原因を
考えていると判断される。



(4) 受講の結果得られたもの

「この分野の学問に対する関心が深まった」と「一部の内容に関心を持った」を学科毎に合計すると63～71%となった。比較的高いこの数値は受講することが学問に対するなんらかの動機づけに働いていると思われる。



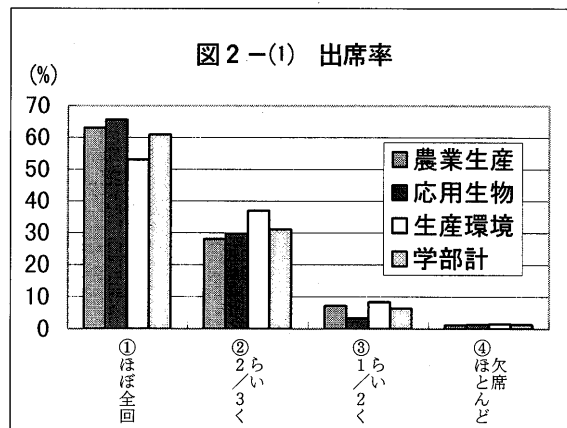
2. 学生自身の受講の様子について

(1) 講義への出席状況

「ほぼ全回出席」の学生が61%、「3分の2出席」が31%という数値は昨年度の調査とほぼ同様である。これを約9割の学生が3分の2以上講義に出席していると肯定的に評価することもできるが、逆にほぼ4割の学生が講義の3分の1以上を欠席しているとも見える。3分の1以上欠席している学生が、はた

して講義の内容を理解しているのかどうかはなほ疑問である。

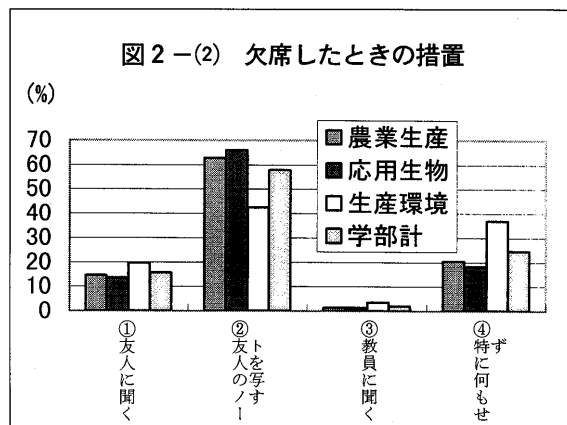
今回の調査では、「ほぼ全回出席」の学生の割合が他の学科と比べて生産環境科学科でやや少なくなっている点が特に目にとまった。



(2) 講義に欠席・遅刻したときの対応（複数回答）

傾向は昨年度の調査とほぼ同様である。62%から80%の学生は、友人からノート进行りたり友人に聞くなりして遅刻や欠席したことに対応している。しかし20%から41%の学生が特に何の対応もしていない。教員に聞く学生が少ないのは、欠席あるいは遅刻の原因が学生自身の個人的な事情による場合が多いと思われるので、この結果はある意味では当然であろう。

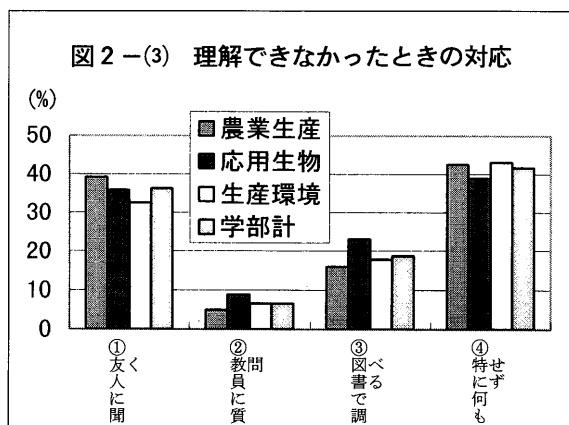
「特に何もせず」の学生の割合が、生産環境科学科で他学科を上回っているが、同様な傾向が昨年の調査においてもあらわれていた。



(3) 講義で理解できなかった箇所が出たときの対応（複数回答）

複数回答であるので、約40%の学生がわからない所が出てきても何もせず、残りの約60%の学生が、何らかの手段でわかって努力していると判断できる。約40%の学生が講義に対して全く積極的に努力していないことは大変な問題である。講義の3分の1以上を欠席する学生が約40%いることを考えあわせると、約40%の学生は講義についていく意欲を持っていないと考えざるを得ない。この傾向はいずれの学科においても見られる。半数近くの学生がこのような状態にあることを我々は深刻に受けとめる必要がある。

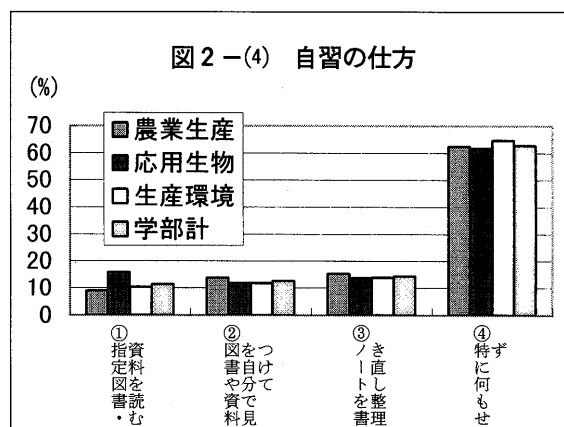
この結果を学科別に見た場合、「図書で調べる」、「教員に質問」が応用生物化学科でやや多く、より積極的な対応をしている学生が他学科にくらべて多少多いようである。また、教員に質問する学生がいずれの学科においても1割に満たないことは、我々教員にとっても大変残念なことである。最近、講義中に質問する学生がほとんどいないということを良く聞く。これは最近の学生の特徴であるかもしれないが、学部改組によって一学科の学生数が増えたことがこの傾向を加速しているようにも思える。しかし講義の後で積極的に質問する学生は必ず何人かおり、教員に質問しようという学生の数が実質的に減少しているようにも思えない。講義中・講義後を問わずより積極的に質問できるよう、我々教員が雰囲気作りを心がける必要がある。



(4) 講義科目を受講するに際しての準備 (複数回答)

特に自習をしなかったという学生がいずれの学科においても6割を越えている。驚くべき数字である。大学に身をおきながら講義以外の時間に自分から勉強しようという意欲を持っている学生が半数に満たない。

これまでの設問で明らかになったように講義で分からない事が出てきたときに何もしない学生が約40%、講義の3分の1以上を欠席する学生が約40%もいるというのが現状である。これらの学生の多くが試験前の勉強だけで進級し卒業しているはずである。我々教員が魅力ある講義を行う努力をすることは当然であるが、いかに魅力ある講義も出席しない学生には通用しない。また学問は自ら努力することなしにその魅力を理解することは困難であろう。今後、我々教員が学生の努力と成績の評価を厳格に行い、それによって勉学に対する努力の必要性を学生に認識させることも必要であると思う。

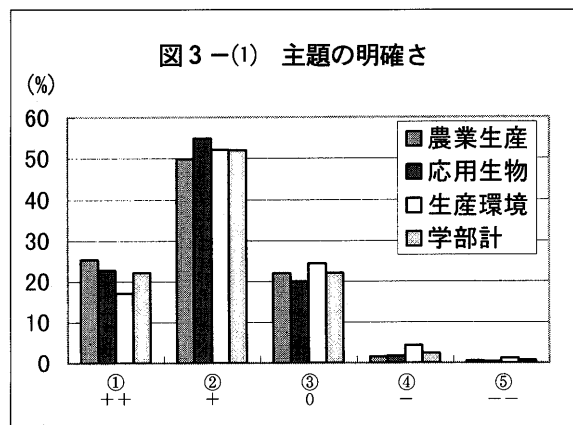


3. 当該授業の内容評価について

以下の授業内容の評価に関しては、++「強くそう思う」から--「強くそう思わない」まで5段階評価で設問した。

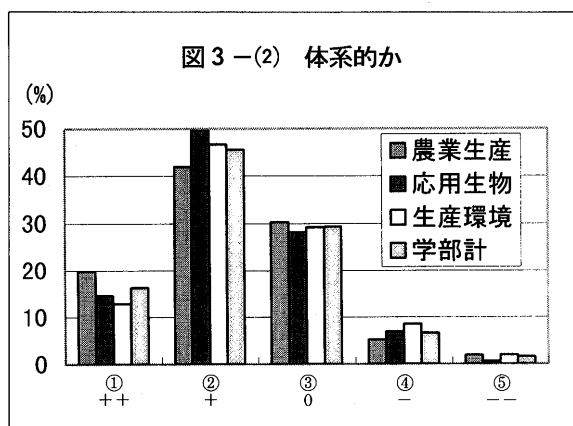
(1) 講義の主題・テーマが明確で、その趣旨に沿って進められたか

この設問では、++ないし+の肯定的な評価は、全体では74%と非常に高い評価となった。否定的な--ないし-は全体でわずか3%しかなく、ほとんどの学生は、講義の主題・テーマを理解して受講していると言えよう。言い換えれば、学部の教員の講義は、毎回主題・テーマが明確にされて進められていることがうかがえる。各学科間には、ほとんど差は認められないが、否定的な回答をした割合は、生産環境科学科が6ポイントと最も高い値を示した。



(2) 講義の内容・説明が体系的であったか

講義の内容・説明が体系的で整理されていたかについて「講義内容が体系的で整理されていたか」に関しては、62%の学生が肯定的な評価をしていた。この傾向は、すべての学科でほぼ同じ傾向を示していた。最も高い評価を示した応用生物化学科に比べて、最も低い生産環境科学科は、5ポイント低かった。過半数以上の学生は、講義内容を体系的と評価している一方で、否定的な回答も8%ある。特に生産環境科学科は、その割合が10%を超えている。前問で、主題・テーマが明確であることに、否定的な回答を行った割合以上に、否定的な回答が増加したことは、より工夫した講義内容が求められていると言える。

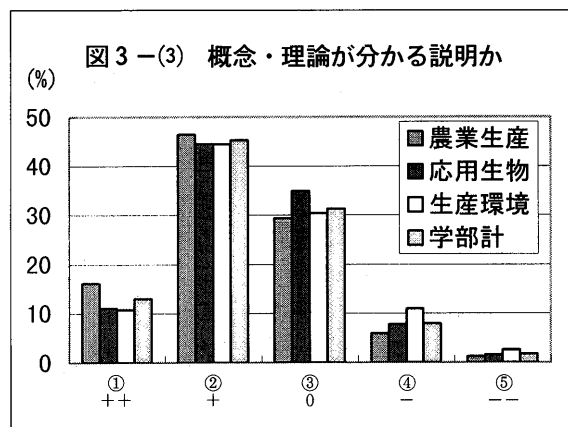


(3) 概念や理論の説明

「講義の中でいろいろな概念や理論がわかるように説明されたか」という設問に関しては、全体的には、58%が肯定的な見方をしたが、学科毎の評価では最高の農業生産科学科の63%と生産環境科学科の55%では、

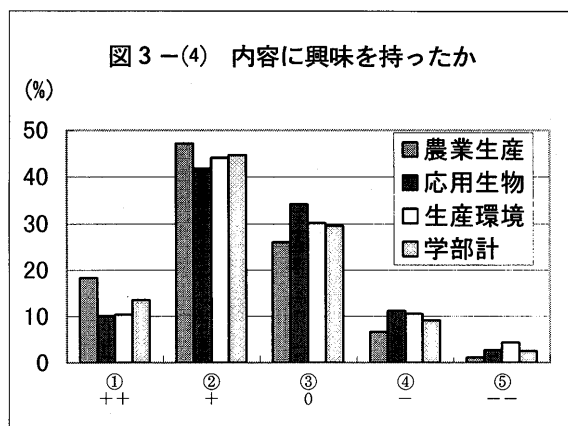
8ポイントの大きな差となった。

応用生物化学科では「どちらともいえない」という0評価をした学生は35%と最も高かった。これにマイナス評価を加えると、44%が保留ないしは否定的な見方をしていることになり、最も高い結果となった。



(4) 講義の内容について

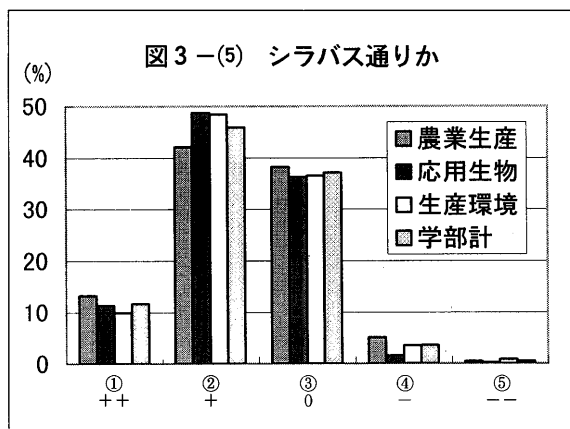
「講義の内容は興味あるものだったか」については、全体では、58%がプラス評価をした。プラス評価では、農業生産科学科が66%と最も高く、次いで生産環境科学科54%、応用生物化学科の52%であり、14ポイントの差を生じた。マイナス評価では、生産環境科学科15%、応用生物化学科14%、農業生産科学科8%となり、7ポイント差となった。学科間の差が大きい結果となった。



(5) 講義の進め方

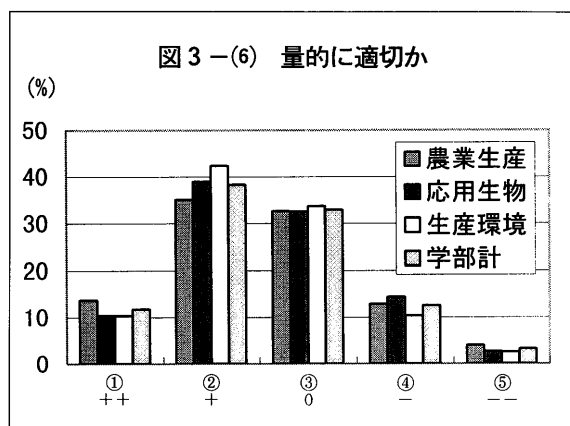
「講義概要（シラバス）のとおりに進められたか」という設問に関しては、マイナス評価は各学科とも非常に少なく、平均では4%にとどまった。特に、応用

生物化学科ではわずか1.7%であった。プラス評価では、各学科とも同じような値を示し、全体の平均では58%に達した。一方で0評価は、各学科共、36~38%を示している。シラバス自体にあまり関心を持っていない学生が多いことを意味している。



(6) 授業の量的な適正さ

「各回の講義あるいは全体の授業の内容は、量的に適切だったか」という項目に関しては、プラス評価からマイナス評価まで、学科間のバラつきが最も少なかった。プラス評価、マイナス評価共に、最も大きな差はいずれの場合も4ポイント差であった。適度であったとの回答は、全体の平均でちょうど50%であった。しかし、0回答が33%もあり、講義のボリュームのみならず、授業そのものにあまり関心を持たない学生も多いのではないだろうか。

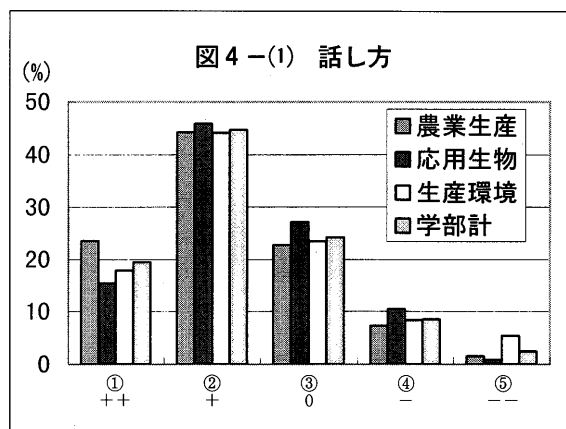


4. 当該授業のやり方について

前述の質問と同様に、アンケートを実施した当該授業のやり方に関する意見を++から--まで、5段階評価でたずねた。

(1) 教員の話し方（速さ、声の大きさ、明瞭さ等）

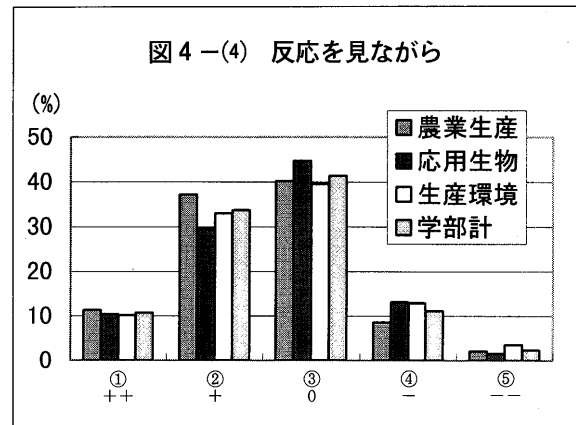
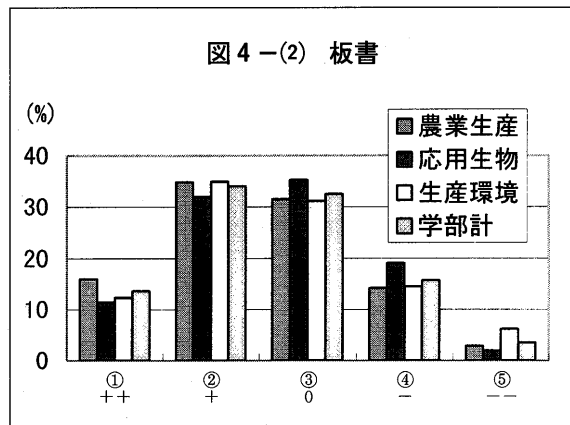
全体の傾向としては、++と+評価の合計が62%、--と-評価の合計が11%となり、第二回目の調査結果（前者65%、後者12%）にくらべて格別に大きな評価の変化は認められなかった。学科別のプラス評価の順位は、農業生産科学科（67%）、生産環境科学科（62%）、応用生物化学科（61%）となっていた。



(2) 黒板の使い方、板書の仕方

全体でのプラス評価（++と+の合計）は47%で、50%を下回り、マイナス評価（--と-の合計）も19%に達していた。黒板の使い方、板書のしかたに対する学生の評価は厳しく、第二回目の調査結果に比べても（前者45%、後者20%）ほとんど改善は認められなかった。学生が、板書にどのようなことを要求しているのか不明であるが、書いた物だけを写しておけば良いと考えているのなら、問題である。

この点については、学生の要求を細かく聞く必要がある。プラス評価の学科別順位は、農業生産科学科（51%）、生産環境科学科（47%）、応用生物化学科（43%）の順であった。

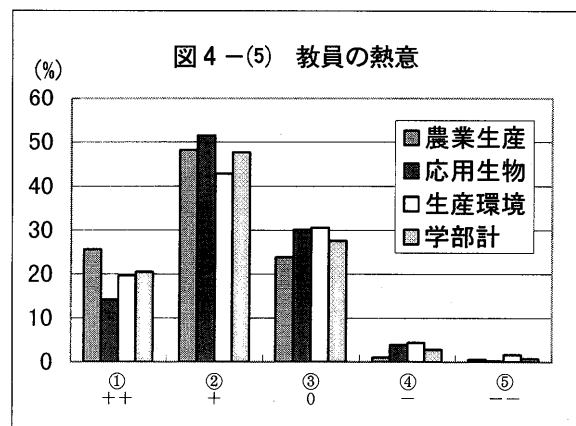
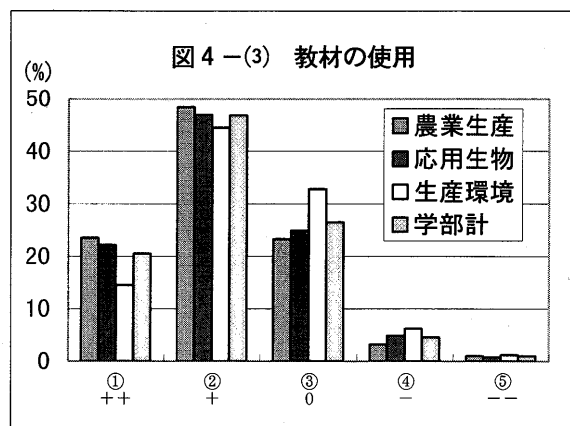


(3) 視聴覚教材・プリント・教科書などの適切な使用

全体でのプラス評価は67%、マイナス評価は5%で、前回の調査（前者57%、後者11%）に比べて大幅な改善が認められている。教員の努力を評価したい。プラス評価の学科別順位は、農業生産科学科（74%）、応用生物化学科（69%）、生産環境科学科（59%）であった。

(5) 教官の講義に対する熱意

全体のプラス評価は68%、マイナス評価は3%で、前回の調査と大きな変動は認められなかった。教員の熱意に対する学生の評価は幸いなことに高いといえる。プラス評価の学科別順位は、農業生産科学科（74%）、応用生物化学科（66%）、生産環境科学科（63%）の順であった。



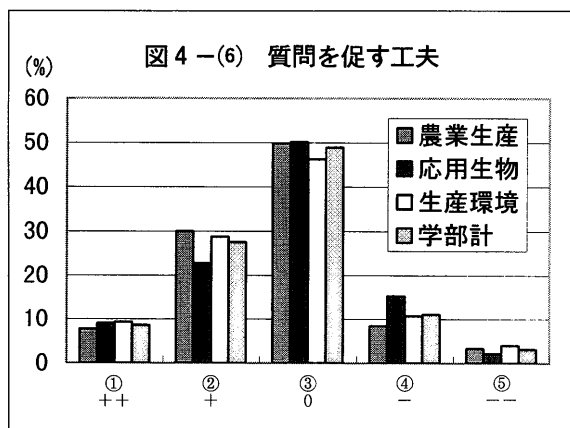
(4) 講義の進め方

全体のプラス評価は45%で、前回の36%に比べれば9ポイントの改善が認められるが、50%に達していない。他の項目に比べて0評価（普通）が41%を占めるのが特徴である。「学生の反応をみながら進める」というのは、簡単そうにみえてなかなか難しい。プラス評価の学科別順位は、農業生産科学科（48%）、生産環境科学科（43%）、応用生物化学科（40%）でいずれの学科も50%に達していない。

(6) 学生に質問を促すような工夫

教員が学生に質問を促す工夫をしているかという点での評価は、プラス評価が36%で、授業のやり方に関する質問のなかで、最も厳しい評価となった。半数近くが0評価であり、マイナス評価も14%に達している。前回の分析で、「質問事項を紙に書かせるとよい」という指摘があったが、そこまでしなければ、質問できないのかという疑問もある。最近の学生は、すべてを用意してあげないと、動かないといわれているが、いたれりつくせり、というやり方は、かえって学生の自主性を奪うことになるのではないか。授業中に、気軽

に質問できる雰囲気醸し出すことは必要であるが、プラス評価の学科別順位は、生産環境科学科（38％）、農業生産科学科（38％）、応用生物化学科（32％）の順であった。



5. おわりに

今回の学生へのアンケート調査は平成8年9月（第1学期）に実施した内容（大学教育年報第3号報告）と全く同じものである。今回の第2学期調査で、平成8年度に開講したほぼ全科目を調査対象としたことになる。なを、実験（実習）、演習、情報処理科目についてはここでは取り上げず、別の所で解析を行っている。第2学期の調査結果を中心に第1学期の調査結果と比較しながら、大きな項目毎に概括的にまとめた。

1. 一般的な質問について

「講義選択の理由」は前回の調査結果でも見られたように、質問項目の中で最も大きな数値変動を示し、学科間のカリキュラム内容の差異を反映した結果と考えられた。専門科目の中で必修科目の占める割合は農業生産科学科19％、応用生物化学科58％、生産環境科学科33％となっており、応用生物化学科の突出した「必修だから」の66％はこのためと思われる。必修科目の少ない農業生産科学科、生産環境科学科では、「講義概要を見て」と「専門として必要」を選択した学生が多く見られ、シラバスが大いに活用された結果と思われる。

講義の難易度について「わかりにくかった」、「非常にわかりにくかった」の合計が前回より10％減少し

てはいるが、それでもまだ20％強になる。学生はその理由を自分の責任、すなわち勉強不足や基礎知識の不足等として認めている。同時に「講義の程度が高い」、「内容に興味をもてない」、「授業のやり方がよくない」に不満を表し、改善を求めている。それにも関わらず、「受講の結果得られたもの」に対する評価は高く、「一部の内容に関心を持った」までを含めると92％となった。この高い数値は受講に対する動機づけの可能性を示唆しており、これをヒントに我々教員はより一層の工夫が必要である。

2. 学生自身の受講の様子について

講義への出席状況は3分の2以上の出席者が92％を占め、試験を受ける権利を確保していることでは評価できた。しかし3分の1以上の欠席者が40％弱いて、その時の措置として「特に何もしない」と回答している者が平均で25％、学科によっては37％にも達していた。理解できなかったときの対応と受講の準備の設問に「何もしない」と答える学生がそれぞれ42％、63％もあり、いかに勉強をしていないかがわかった。これらの数値は前回の調査より5％減少してはいるが、教員に対し大きな問題提起をしていると考えられる。

3. 授業の内容評価について

おおかたの学生は講義の主題・テーマを理解して受講し、講義内容・説明は体系的で整理されていたと評価している。一方「概念や理論の説明」、「興味の有る講義内容」、「授業の量的適性さ」ではマイナス評価が高くなり改善を求めていることがわかる。年度始めの受講科目の選択以外にシラバスは利用されていないようで、「講義の進度」に0評価が40％弱見られ、それへの無関心さが伺える。シラバスの有効利用の面から考えると、さらなる改善が必要と思われる。

4. 授業のやり方について

授業のやり方については評価が大きくに分かれた。教員の話し方は適切で、授業に対する熱意も十分に認めている。しかし前回同様「講義の進め方」のプラス評価は低く、特に「質問を促す工夫」は極端に低い。教員の意気込みが空回りをしていることになる。教員が一方的に講義をするのではなく、学生の意見も聞きながら双方向の授業が求められているようだ。当然シラバスの内容も柔軟性のあるものへの工夫が必要とな

るであろう。

教材の使用は前回の調査結果に比べて大幅な改善が認められた。しかし黒板の使い方に関しては、学生の不満が高く、それが具体的に何処にあるのか検討しなければならない。

一年間にわたって授業に対する農学部学生の評価を見て、色々な点で改善が求められていることがわかった。特に、授業内容に関して、教員の意図と学生の理解度のズレが指摘されたことは大きな成果である。同時に、自習をしない学生が6割以上、さらに理解できない箇所の復習をしない学生が4割以上もいる現状は教員に大きな問題提起をしていると考えられる。講義内容・説明の工夫だけでは勉学への意欲回復は困難に思われる。教員は学生の理解レベルを把握し、魅力ある講義を行う努力をすると共に、学生にはある段階までは、課題を与えて半強制的に学習をさせることも必要なのではないだろうか。

以上の結果を手がかりに、農学部教育検討委員会としては、さらに議論を深め、また学科へのフィードバック等を通じて、今後一層、授業改善の努力を進めていきたい。

謝辞

本アンケートの実施に当たって、多くの関係教員と学生諸君の協力を得た。また、本調査の遂行に当たっては、大学教育開発センターから資料提供や予算的配慮を頂き、農学部学務係には事務的な手を煩わせた。記して感謝申し上げる。

新潟大学農学部教育検討委員会

委員長 鈴木敦士

古市尚高 祝前博明

仲川洋治 渡辺剛志

阿部信行 早川嘉一

授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）

一 講 義 科 目

農学部教育検討委員会

農学部では、目下、教育改善の検討を行っています。このアンケートはそのための一環として行うもので、授業に対する学生諸君の評価・意見等に基づいて、授業の改善や教員の教育能力の向上に役立てることを目的とします。このアンケートの結果がこの目的以外の成績評価などに使用されることはありません。

選択肢の中で当てはまるものを選択し、マークシートの該当の番号の上下の点をHBの黒鉛筆で正確に「線」で結んでマークしてください。

選択肢が「++ + 0 - --」になっている場合は、次のことを表しています。

- 「++」は、「強くそう思う」
 「+」は、「そう思う」
 「0」は、「どちらでもない」
 「-」は、「そう思わない」
 「--」は、「強くそう思わない」

なお、特に意見・感想のない場合には、その質問に答える必要はありませんので、マークシートの該当欄は空白にしておいてください。

1. まず準備としての質問です。

- (1) どの学科に所属していますか。
 ①農業生産科学科 ②応用生物化学科 ③生産環境科学科 ④その他（他学部等）
 (2) 学年は何年ですか。
 ①1 年 ②2 年 ③3 年 ④4 年

2. 一般的な質問です。

- (3) この講義を選択した理由は何ですか。（複数回答可）
 ①必修だから ②講義概要を見て内容に興味をもった ③専門科目として必要だと思った ④時間割の関係で選択せざるを得なかった ⑤簡単に単位が取れそうだった ⑥その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）
 (4) この講義の難易度は、あなたにとってどうでしたか。
 ①非常にわかりやすかった ②わかりやすかった ③どちらともいえない ④わかりにくかった ⑤非常にわかりにくかった
 (5) 受講してわかりにくい点が出てきた理由は何だと考えますか。（複数回答可）
 ①講義の程度が高すぎる ②受講に要求される基礎知識が不足していた（高校での未履修等による） ③自分の勉強、努力が足りなかった ④内容に興味をもてず勉強する気にならなかった ⑤授業のやり方が良くなかった ⑥その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）
 (6) 受講の結果、どのようなものが得られましたか。
 ①体系的知識が身についた ②この分野の学習に対する関心が深まった ③一部の内容に関心をもった ④特に何も得られなかった ⑤その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

3. あなたの受講の様子について質問します。

- (7) どのくらいこの講義に出席しましたか。
 ①ほぼ全回出席した ②2/3くらいは出席した ③1/2くらいは出席した ④ほとんど出席しなかった

- (8) 講義に欠席あるいは遅刻したとき、その後どうしましたか。（複数回答可）
 ①講義の内容を友人に聞いた ②ノートを友人に借りて写した ③担当教員に聞くようにした ④特に何もなかった
 (9) 講義で理解できなかった箇所が出てきたとき、どうしましたか。（複数回答可）
 ①友人にたずねた ②担当教員に質問するようにした ③関係する図書で調べるようにした ④特に何もなかった
 (10) 講義科目を受講するに際して、どのような自習をしましたか。（複数回答可）
 ①指定の図書や資料を読んだ ②関連する図書や資料を自分で見つけて読んだ ③ノートを書き直して整理した ④特に何もなかった

4. この授業の内容について質問します。

- (11) 講義の主題・テーマが明確で、その趣旨にそって進められましたか。
 ++ + 0 - --
 (12) 講義の内容・説明が体系的で整理されていなかったか。
 ++ + 0 - --
 (13) 講義の中でいろいろな概念や理論がわかるように説明されましたか。
 ++ + 0 - --
 (14) 講義の内容は興味あるものでしたか。
 ++ + 0 - --
 (15) 講義概要（シラバス）どおりに進められましたか。
 ++ + 0 - --
 (16) 各回の講義あるいは全体の授業の内容は、量的に適切でしたか。
 ++ + 0 - --

5. この授業のやり方について質問します。

- (17) 教員の話し方（速さ、声の大きさ、明瞭さ等）は適切でしたか。
 ++ + 0 - --
 (18) 黒板の使い方、板書の文字は適切でしたか。
 ++ + 0 - --
 (19) 視聴覚教材・プリント・教科書等は適切に使用されていましたか。
 ++ + 0 - --
 (20) 講義は、学生の反応を見ながら進められていると思いましたか。
 ++ + 0 - --
 (21) 教員が講義に熱意をもっていると感じましたか。
 ++ + 0 - --
 (22) 教員が学生の質問を促すような工夫をしていましたか。
 ++ + 0 - --

6. その他次の事項について、マークシートの裏面に自由に書いてください。

- (23) この講義で良かったと思う点をあげてください。
 (24) この講義で良くなかったと思う点をあげてください。
 (25) 新しく開講を希望する科目はありますか。
 (26) その他、設備などに対する意見を含めて、自由に書いてください。